

③ 変わる教育観と「ゆめはま教育プラン」「まち」とともに歩む学校づくり

1 変わる教育観と生き方の教育の推進

急激な社会の変化やそれに伴った教育における諸課題を根本的に解決し、子どもたちのだれもが夢と希望をもって自分の生き方を創り出していくことができるようにするためには、これまでの教育の質的な転換を図っていく必要があります。

そのために横浜市では、子ども一人ひとりの「生き方を重視した教育」すなわち「生き方の教育」の推進を提示しました。

「生き方の教育」とは、自ら成長していく子どもの世界を大切にしながら、様々な人や自然などとの豊かなかかわり合いの中で学び、自分を見つめ、自分で自分の生き方を切り拓いていくこととする子どもの主体的な「学び」を扶(たす)けていく教育です。この「生き方の教育」は、子ども観を変え、子どもの学びや成長していく過程を大切にするとともに、これまでの学校観を変えていくことによつてこそ実現するのです。

① 子ども観を変える

これからは子どもを、「自ら成長していく存在」「かけがえのない存在」「主体的に生きていく存在」ととらえ、そのような視点から、

これまでの教育を見直していく必要があります。さらに、子ども観を変え、具体的に「生き方の教育」を推進していくために、「学びの主体者は子どもである」という学習観、「教師は学習の支援者である」という指導観、「子ども自身の向上のための評価」という評価観への転換を図っていく必要があります。

② 子どもの学びを重視する

子どもは人や自然など他とのかかわり合いの中で成長し、成長に応じて他とのかかわり合いも広がっていきます。したがって、子ども一人ひとりに応じた他とのかかわり合いを体験していくことが、子どもの成長をより豊かにしていくといえます。

「学び」とは、このように成長していくそれぞれの過程において、様々な人や自然などとの豊かなかかわり合いの中で、その「生き方に学び」、自分の「生き方を見つめ」、自分らしく充実した「生き方を創ろうとする」とことです。このように「子どもの学びを重視した」教育を創造していく必要があります。

③ 子どもの成長過程を重視する

子どもは「自ら成長していく存在」です。そして、だれもが自分らしくより豊かに成長

していきたいと願っています。「生き方の教育」とは、このような子どもの成長を支えていく教育のことです。

そのためには、子どもが自ら成長していく姿をしっかりとらえ、それに応じた適切な教育を創造していく必要があります。また、その前提として、すべての子どもが、かけがえない自分らしさを肯定的に受け止め、生きる意味を見いだし、存在感や有実感ももてるような成長過程を歩むことができるように支えていく必要があります。

④ 学校観を変える

子どもの生活の場は家庭であり、「まち」であり、学校です。子どもはそれぞれの場で学び、自分や社会を見つめ、自分の生き方を創っていきます。

「生き方の教育」における子どもの学びは、学校教育だけでなく、家庭や「まち」とのかかわり合いの中で実践的に確かめられることによつて、新たな関心や意欲が高まり、その結果として、より確かな力となっていきます。

このように、これからは「社会全体で子どもをほぐくむ」「学校は生涯学習の基礎づくりの場」という新しい学校観に立った教育を創造していく必要があります。

1 変わる教育観と生き方の教育の推進
2 1 これからの学校教育のあり方・ゆとり・活力・魅力ある学校づくり

「ゆめはま教育プラン」とは？

「ゆめはま教育プラン」は、平成14(2002)年度を初年度とする新教育課程や完全学校週5日制実施に対応すべく、現行の「横浜プラン」「開発プラン」を継承・発展させ、策定したものの。国の学習指導要領に基づくとともに、これをより充実するため、横浜の子どもの実態等に鑑み、横浜らしい視点として「生き方の教育」の推進を打ち出し、新たな学校づくりを目指している点に特色がある。プランは、平成11年度から一部先行して実施している。

これまでの横浜市教育プラン

- ① 「横浜プラン」(昭和51年3月策定)
子どもを学習の主体者としてとらえ直す視点から、「自ら学ぶことができる子ども」の育成を目指し、「課題学習」「合科的・関連的扱い」「学習時間の弾力化」などを打ち出した。
- ② 「開発プラン」(昭和63年3月策定)
生涯学習社会の基礎を培う視点から、「自ら学び続ける力を身に付け、心豊かにたくましく生きる子ども」の育成を目指し、「国際理解教育」「地域に根ざす教育」「体験的な学習」などの推進を打ち出した。

これからの学校教育のあり方 ゆとり・活力・魅力ある学校づくり

「生き方の教育」を推進し、一人ひとりの子どもが心豊かに成長していくために、「ゆとり」「活力」「魅力」ある学校へと「学校が変わる」必要があります。

「ゆとり」ある学校とは、子どもどうし、子どもと教職員が信頼関係で結ばれている学校です。このような温かい人間関係を築くことで子どもは「心のゆとり」をもち、安心感や存在感をもつことができるようになるのです。「ゆとり」ある学校で子どもたちは、友達と共に学び合い、友達に支えられることによって、次のステップへの見通しをもった活動ができるようになります。

「活力」ある学校とは、子どもや教職員がそれぞれの持ち味を生かし、意欲的な活動を行っている学校です。このような活動の中で、子どもは充実感や成就感をもつことができますようになるのです。「活力」ある学校で子どもたちは、自分のペースに合った活動や自分で決定したり自分を見つめたりする活動に主体的に取り組むとともに、共に活動する良さや喜びを感じることができるようになります。

「魅力」ある学校とは、子ども、教職員、保護者、「まち」の人が信頼関係で結ばれ、それぞれの思いや願い、子どもや「まち」の実態を生かした、「まち」とともに歩む特色ある教育活動を行っていて、だれもが行くのを楽しみにしている学校です。「魅力」ある学校で子どもたちは、教職員をはじめ、保護

者や「まち」の人に温かく見守られながら自分の思いや願いを実現することができ、自分や友達の成長を共に喜び合うことができますようになります。

「ゆとり」「活力」「魅力」ある学校では、特に「基礎・基本の定着を図る」「学習の総合化を図る」「学習環境の充実を図る」ことが大切になってきます。

① 基礎・基本の定着を図る

子どもたちが自分で自分の生き方を切り拓くことができるためには、基礎・基本をしっかりとし身に付ける必要があります。

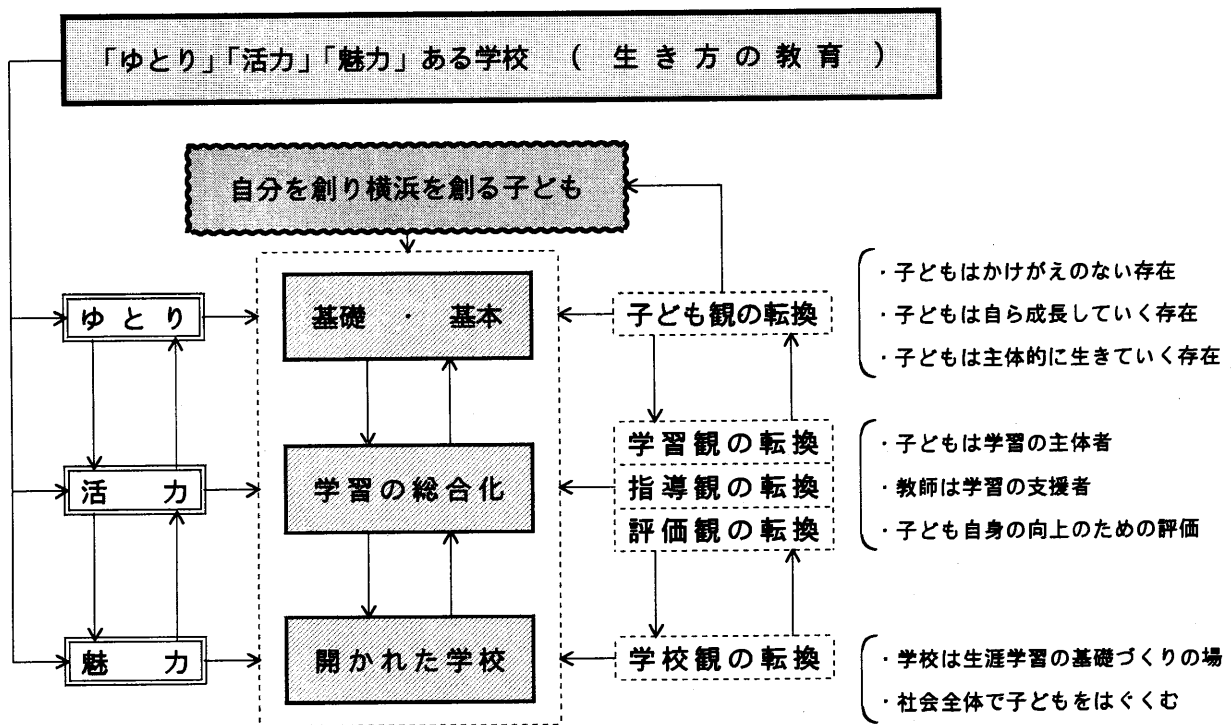
今まで、ともすると知識偏重になりがちであった基礎・基本のとらえ方を変え、「生き方の教育」においては、自分で自分の生き方を切り拓くために必要なものを基礎・基本ととらえることとしました。そのような考え方に立ち、基礎・基本を、「知識・技能の基礎・基本」「学び方の基礎・基本」「生き方の基礎・基本」の三つとしました。

a 三つの基礎・基本

子どもが新たな生き方を切り拓いていくためには、その土台となる知識や技能が必要で、それを「知識・技能の基礎・基本」としました。

また、そのときに身に付けている「知識・技能の基礎・基本」を使いながら、筋道を立てて問題や課題を解決していくための方法や手段を身に付けることも大切です。それを「学び方の基礎・基本」としました。

さらに、「知識・技能」や「学び方」の基礎・基本を使って、思考・判断し行動し



たり、人間性を高めていくためのものを「生き方の基礎・基本」としました。

b 基礎・基本の身に付け方

これらの基礎・基本の身に付け方は、子ども一人ひとりによって異なっています。例えば、「知識・技能の基礎・基本」については、比較的速度やかに身に付ける子どももいれば、じっくりと時間をかけていていぬいに身に付けていく子どももいます。また、「学び方の基礎・基本」については、直感的に結論を導く子どももいれば、こつこつと筋道を立てて確認しながら問題を解決していく子どももいます。さらに、「生き方の基礎・基本」は子ども一人ひとりの生き方によって異なっています。

したがって、一人ひとりに応じて基礎・基本の定着を図る必要があります。そのためには、子ども一人ひとりの特性を教師が十分に理解し、個に応じた指導を充実することが大切です。

② 「学習の総合化」を図る

子どもは身のまわりの生活や自分の生き方の中に課題を見だし、自分のもつ様々な力を総合的に発揮しながら解決しようとしません。

このような、自分で自分の生き方を切り拓いていく子どもの主体的な「学び」に、学校教育で行われる「学習」を近づけて行こうとする考え方が、「学習の総合化」なのです。このような学習は、子ども一人ひとりにとって意味があり、子どもの生活や生き方に結び付いているものでなければなりません。

したがって、子どもの生活や生き方の視点に立って、子どもが身に付けていく力を総合的にとらえた教育活動を展開する必要があります。

a 「学習の総合化」を図るために

学習の総合化を図るためには、学習の中に次のような要素が入っていることが大切です。

○子どもの主体的、自発的な学習であること

子ども一人ひとりが意欲的に取り組み、個性が生きる主体的、自発的な学習であるということです。

○問題解決的な学習過程であること

子どもが自分の思いや願い、生活や生き方から出た課題をもち、それを解決していくことができる学習であるということです。

○子どものもつ課題に発展性があること

課題の解決が、より豊かな課題にふくらんだり、新たな課題の発見や解決につながったりしながら、生き方をより豊かなものにするような学習であるということです。

○子どもの豊かな体験を含む学習活動であること

子どもが実際に体験したり、体験したことに基づいた学習であるということです。

b 「学習の総合化」を図った学習活動

「学習の総合化」は、国語や算数などと

いったそれぞれの教科の学習の中で、また、国語と社会との関連を図るなどいくつかの教科を関連させた学習の中で、さらに、新たに創設された「総合的な学習の時間」の中で、つまり、すべての学校教育の中で図られる必要があります。

とりわけ、「総合的な学習の時間」は、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」「学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」というねらいをもつことから、「学習の総合化」の考え方がもっとも顕著にあらわれる学習ということになります。

c 「学習の総合化」と基礎・基本

「学習の総合化」を図った学習で子どもたちは、問題を解決するために必要な力を総合的に発揮することになります。子どもたちはそれらの力を学習の過程で、より深めたり、より高めたりしていきます。したがって、そのような学習の過程の中で、「知識・技能の基礎・基本」「学び方の基礎・基本」「生き方の基礎・基本」を相互に関連させながら、総合的に身に付くようにしていくことが大切になります。

③ 学習環境の充実を図る

「生き方の教育」を推進していくためには、子どもの「学び」に対応した環境を整備していくことが求められます。環境とは、施設・設備等の物的な環境だけでなく、子どもの主

学習の総合化・具体的推進策

～「学びの内容改善モデル校」

小・中学校計18校を選定し、各校の実態に合わせて「総合的な学習の時間」等の内容や実施方法の検討を行い、地域に根ざした特色ある学校を目指している。

学習環境の充実・具体的推進策

～「学びの環境整備モデル校」

小・中学校計18校を選定し、小グループでの学習推進、廊下や多目的スペースを活用した学習など新しい学習内容に応じた環境づくりを目指している。

その他～小・中学校の連携

右記の二つに加え、小学校と中学校とが連携し、成長に応じた学習について研究する学校を「小・中学び合い推進モデル校」として一校ずつ選定し、共に学び合う学習や教職員の相互交流を実施するなど、小・中学校が互いに理解と協力の上で立つ学校教育の実現を目指している。

体的な「学び」を支えるための学習集団、学習時間、学習の場、及び「まち」とのネットワークなどによる人的な環境を重視することが大切です。

a 学習集団の多様化

これまでの「学級Ⅱ学習集団」という考え方を広げ、子どもがもつ課題に応じた学習集団を構成していくことが求められます。例えば、様々な課題別の学習集団を構成したり、子どもが選択できるような学習集団の多様化を図ったりすること、また、学級の枠を外したり、異なる学年集団を構成したりして、ティーム・ティーチングなどを積極的に取り入れことなどがあげられます。

b 学習時間の弾力化

これまでの一律の単位時間での学習の展開という考え方を広げ、子どもの思考の流にに応じて学習時間の弾力化を図ることが求められます。例えば、学習時間を十分に確保し、体験的な学習や問題解決的な学習にじっくり取り組めるようにしたり、子どもの生活リズムに応じて学習時間の配分を工夫したり、ある時期に集中的に行う学習をできるようにしたりすることなどがあげられます。

c 学習の場の多様化

これまでの「教室Ⅱ学習の場」という考え方を広げ、子どもがもつ学習の課題によって、その課題の解決に適した学習の場を選択していくことが求められます。例えば、集中して活動できる場を工夫したり、ゆとりをもって活動できるようオープンスペースや廊下、余裕教室等の工夫をしたり、運動場や校舎まわりなどを子どものもつ課題に応じて多面的に使えるよう工夫したり、学習の情報がすぐに得られるよう図書などの学習情報を分散配置したりすることなどがあげられます。

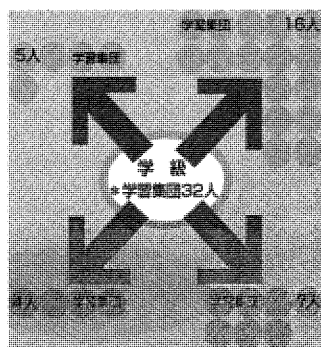
d 「まち」とのネットワーク化

これまでの学校の中や教師だけで学習を行うという考え方を広げ、広く「まち」とのネットワーク化を図ることが求められています。例えば、「まち」の人に学んだり「まち」の行事に参加したりすること、公共機関、研究施設などとの連携を深め、学習への理解を確かなものにする、また、各学校間や幼稚園・保育園などと連携したり、普通学級と特殊学級との交流を図ることなどがあげられます。

△教育委員会事務局指導第一課

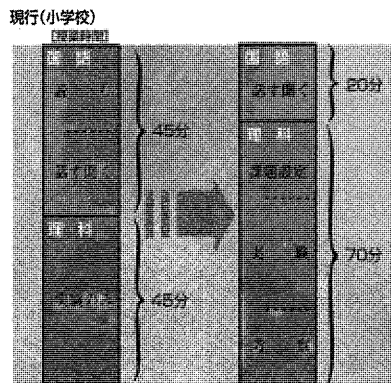
主任指導主事▽

学習集団の多様化



*横浜市立小学校の平均児童数（1学級あたり）

学習時間の弾力化



学習の場の多様化

